

OneF自動車事業推進チーム活動への期待



寺谷 達夫*
Tatsuo Teratani

クルマの歴史130数年、今第2の変革期を迎えています。キーワード「電動化」「自動運転」「情報通信」の中、自動車のパワートレインと価値観の多様化および使い方で、世界的な変革が始まろうとしています。

古河電工グループの「OneF自動車事業推進チーム」発足の経緯、狙い、手応え、今後への期待について述べます。2014年、某大手自動車メーカーエンジニアから出た一言、「古河電工は、各部門の技術力は高そうだが、商品イメージでの提案力が弱い！」をきっかけに、古河電工グループの総力を上げた取り組みが始まりました。この取り組み（プライベート展示会）を成功させた参加メンバーは、大きな自信と手応えを得ることができ、この成果は翌年2015年の日常的なチーム活動へと繋がりました。

古河電工グループは、クルマとほぼ同じ130数年の歴史を各社、各事業部門が主体に歩んできました。新しい試みの「OneF自動車事業推進チーム」は、組織横断的なプロジェクトチームです。「自動車」に焦点を当てた各テーマ毎に、強力なリーダー（分科会長）の下に技術力と熱意あるメンバーで構成し、社内およびお客様とのコミュニケーションを深化させました。各テーマのポジショニングとロードマップを作成し、スピード感ある対応力が強化され、その結果、お客様のニーズと期待に応える商品へと成果も生まれつつあります。

「OneF自動車事業推進チーム活動」の狙いは4つあります。1つは、古河電工グループ社内の組織の壁を越えた連携、2つは、お客様（自動車メーカ、部品メーカ）との緊密な連携、3つは、海外事業所およびスタッフとの一体感の醸成、4つが技術力向上および人材とリーダー育成です。「継続は、力なり！」そして、なによりも大切なことは、「熱意を持ってチーム活動に参加し、一人一人が付加価値を生み出していくこと！」です。

2017年12月には、「OneF自動車事業推進チーム」メンバーと欧州現地スタッフが一緒になって、海外（独）初の古河電工グループの自動車部品プライベート展示会を成功させました。欧州市場で「Furukawa Electric」の名と「将来技術」を十分にアピールすることができ、国内チームメンバーと海外スタッフとの一体感は、今後、海外での大きな自信となりました。

クルマのモデルチェンジは、約5～6年で進行しているので、先行開発から量産車に搭載されるまでは、やはり5年、10年の「粘り強さ」「熱意」「技術力」「コミュニケーション力」「プロ意識」「マネージメント力」が求められます。今後、自動車業界は、インフラ協調とともに、ますます進化する成長分野であると確信しています。「OneF自動車事業推進チーム活動」が2020年代で大きく花開くことを期待しています。

* 社外取締役